

米国の景気は緩やかに減速

ポイント① 雇用は堅調な伸び

7月5日発表の米国の6月の雇用統計では非農業部門の雇用者数は前月比22.4万人増と5月の7.2万人増を上回り、堅調な伸びを示しました。ただ、雇用者数と労働時間を掛け合わせた労働投入量は、前年同月比1.5%増と5月から横ばいで、1月の2.4%増から減速しています（図1参照）。

6月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は製造業、非製造業ともに5月から低下しました。両指数とも拡大/縮小の分岐点の50を上回っていますが、昨年後半の水準より低下しています（図2参照）。全体的に見て、米国の景気は緩やかに減速しているようです。

ポイント② インフレ率は低位安定化

失業率は6月には3.7%と5月から若干上昇しましたが水準としては低く、労働需給は引き締まった状態が続いています。しかし、米民間非農業部門時間当たり賃金は前年同月比+3.1%と5月から横ばいに留まり、今年初め頃まで見られた賃金の加速化が鈍ったようです。

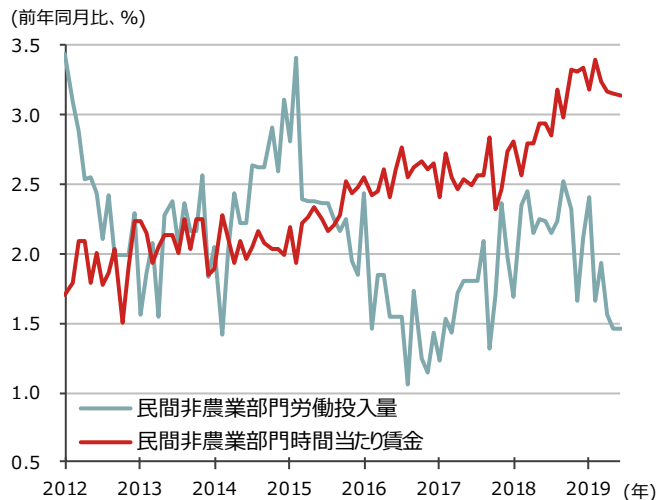
6月末に発表された5月の個人消費支出デフレーターは全体で前年同月比+1.5%、エネルギー、食料品を除いたコア・ベースで同+1.6%と、FRB（米連邦準備制度理事会）が目標とする2%を下回り、インフレ率は低水準で安定しています。

ポイント③ 7月末FOMCは0.25%利下げか

こうした中、米国の金融政策決定の場である7月30、31日のFOMC（米連邦公開市場委員会）が注目されます。6月の雇用者数が堅調な伸びを示したことから、市場では利下げ期待がやや後退しました。しかし、全体的な景気・物価動向から見て、0.25%の小幅利下げ実施の可能性が依然高いようです。

図1：米国の労働投入と時間当たり賃金

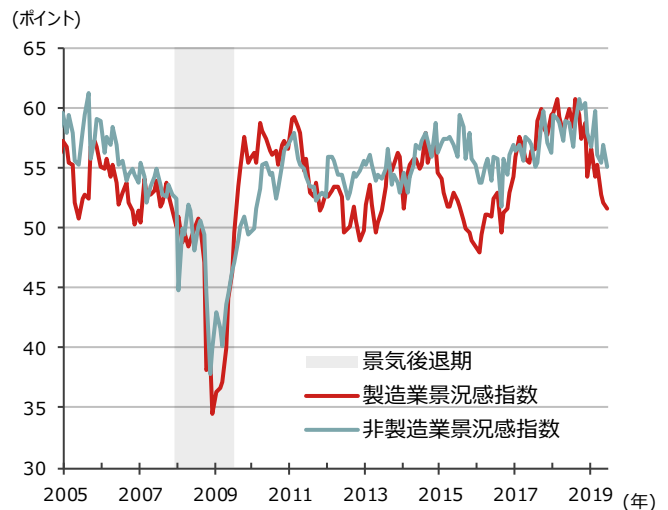
期間：2012年1月～2019年6月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：ISM景況感指数

期間：2005年1月～2019年6月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

7月16日 米小売売上高（6月）
7月26日 米GDP（国内総生産、4-6月期、速報値）
7月31日 米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。